

強者の戦略

【センター試験まであと約120日】

こんにちは！世界史担当、北林でございます。皆さんにとって(講師にとっても?)ハードな夏期講習が終わりました。え、私ですか、もちろん痩せましたが、すぐに戻りましたよ。夏のいつもの姿です(笑)。とにかく健康な姿で教壇に立ち続けられたことに感謝ですね。

夏の模試がそろそろ返ってきてはじめて、弱点があらわになって反省していたり、気合いを入れ直したり、いろいろと志望大学・学部の選択を考えたり、今後の学習指針を見直しているころでしょう。1日1日時間を有効に使ってくださいね。

世界史は長い論述にばかり目がいきがちですが、夏の模試で満足に書けるといふ人はそうそういません。それよりも、例えば東大であれば第二問の短文の問題、第三問のような用語の一問一答、京大であれば第二問・第四問のような用語の問題を、確実に正解できるという力が必要になります。夏の模試で世界史があまり出来なかったという人は、その用語対策からはじめてみてください。そこが確実になれば点数は安定していきます。

さて、いつものように一つ案内を。研伸館では、平常授業に加えて、来週9月19日から「9月特別講座」の期間になります。こちら注目してくださいね。<http://www.kenshinkan.net/school/september/>

では毎度おなじみの入試問題へのチャレンジです。

問題 京都大学 2016年

18世紀のヨーロッパでは、理性を重視し、古い権威や偏見を批判する啓蒙思想が有力となった。イギリスとプロイセンの場合を比較しながら、啓蒙思想がどのような人々によって受容され、また、そのことがどのような影響を政治や社会に及ぼしたか、300字以内で説明せよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

前回と同じく、新聞社さんから解答速報作成の依頼をいただき、解答を作成した問題です。この問題なんですが、実は直前講習の「京大世界史ファイナル予想問題」で、発想が近い問題を出題していたんです。生徒が「先生、当たってたで！」と喜んでくれたのを今でも思い出します。

さて、それでは、教科書や用語集類は何を見てもよいので挑戦してみてください。